

社会資本総合整備計画 事前評価調書

計 画 の 概 要	計画の分野	地域住宅支援
	計画の名称	南砺地域住宅計画
	交付対象	南砺市
	計画期間	平成27年度～平成31年度(5年間)
	計画の目標	・セーフティネットの構築と少子高齢社会への対応を推進することにより、豊かで安全でゆとりある住まい・まちづくりを実現する。 ・自らが住む地域へと関心が広がる中、地域づくりにつながるような住環境向上を実現する。
	定量的指標 (目標値)	ストック改修を行う2団地3棟の公営住宅の入居率(入居戸数/管理戸数) 24/42(H27. 3)→30/42(H32. 3) 老朽危険度判定基準で100点以上の評点 75. 0%→50. 0% である不良住宅の残存率 山間過疎地域における克雪住宅の普及率 60. 0%→62. 0% (補助金交付件数/全世帯数) 災害時に拠点となる地域避難所の機能強化と収容人数の増加 現在440人→計画690人
	対象事業	公営住宅等ストック総合改善事業、公的賃貸住宅家賃低廉化事業、住宅地区改良事業等(空き家再生等推進事業(除却))、木造住宅耐震改修支援事業、克雪住宅普及事業、南砺市に住んでみんまいけ事業、住宅・建築物安全ストック形成事業
	全体事業費	266百万円

評 価	項 目	評 価 細 目	評 価	説 明 欄
	目標の妥当性	1 関連する上位計画等との整合性が図られているか	○	長寿命化計画に基づきストック改善を行う。
		2 地域の課題に適切に対応する目標となっているか	○	少子高齢化社会への対応としての住環境の整備を行う。
	計画の効果・効率性	1 整備計画の目標と定量的指標の整合性が確保されているか	○	目標に基づいた事業を実施する予定であり、整合性を確保している。
		2 定量的指標が分かりやすいものとなっているか	○	事業の成果が指標に直接反映されるものとなっている。
		3 目標と事業内容の整合性が確保されているか	○	目標に基づいた事業を実施する予定であり、整合性を確保している。
		4 中間評価・事後評価時に検証可能な適切な指標となっているか	○	事業の成果が指標に直接反映されるものとなっている。
		5 十分な事業効果が得られる計画となっているか	○	なっている。
	計画の実現可能性	1 計画の熟度が高く、円滑な事業執行の環境が整っているか	○	3期目の計画であり、環境は十分に整っている。
		2 地元の機運が醸成されているか	○	公報に力を入れており、事業内容が浸透している。
	評 価 結 果	評価Ⅰ 事業を実施 評価Ⅱ 計画の見直し	【評価基準】 「評価Ⅰ」は、全項目に○印が付いているもの 「評価Ⅱ」は、1項目でも×が付いているもの	